

三浦市立剣崎小学校

研究テーマ：子どもの豊かさを育む学びを目指して ～魅力ある授業づくりと「えななみタイム」
(算数・読みトレ) 実践を通して、意欲的に学習に取り組む子を育てる～

1、実践の目的

昨年度、意欲的に学習に取り組む子を育てるために、国語と算数の基礎・基本の定着と日常の授業改善を目的として、研究を進めてきた。その結果、児童が学習に対して興味を持ち、積極的に取り組む姿が見られた。本年度はより意欲的に児童が学習に取り組むことができるように、魅力ある授業づくりや、国語と算数の基礎・基本の定着を目指すこととした。具体的には「導入の工夫」と「評価」を授業研究の重点として取り組み、魅力ある授業を行い、主体的に学習に取り組む児童を育てていきたい。また、朝の学習の時間に「えななみ算数タイム」「えななみ読みトレタイム」の実践を行い、基礎・基本の学力(計算力・読む力)を育成し、学習に対してより意欲を持たせたいと考えた。

2、実践の内容

(1) 校内研究の組織・取り組み

研究推進委員会を中心に、2グループに分かれ研究授業、研究協議会を行った。全職員が公開授業を行い、授業前には模擬授業を行うことで授業改善を目指した。グループの代表授業も行い、全員で研究に取り組む機会を設けた。

(2) 校内研究の具体的取り組み

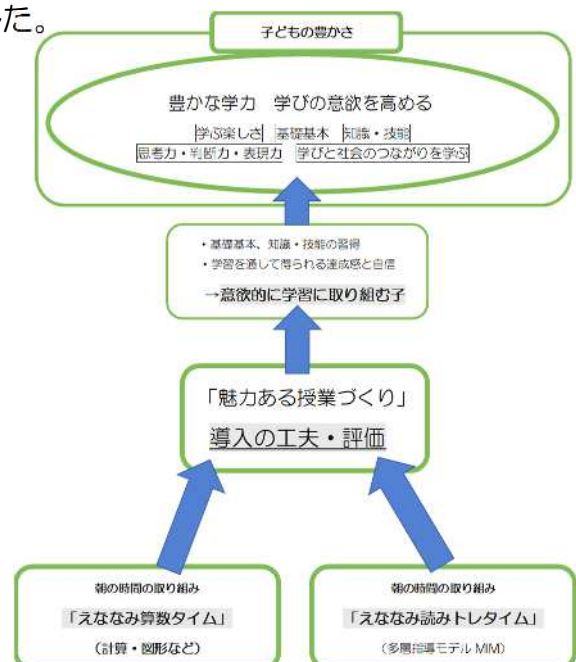
本年度は「魅力ある授業づくり」と「えななみ算数タイム」「えななみ読みトレタイム」を通して、意欲的に学習に取り組む子を育てることを目指して研究を進めた。

「魅力ある授業づくり」のために「導入の

工夫」と「評価」を授業づくりの重点として指導案を作成し、模擬授業、研究協議会を行った。

「えななみ算数タイム」では毎週火曜日の朝の時間に全校で計算プリントやタングラムなどの算数的活動に取り組んだ。計算プリントは全校同じものに取り組み、学期の最後に児童一人ひとりの成長を職員で話し合った。タングラムなどの算数的活動については各クラスの児童の実態に合わせ担当が内容を考えて行った。具体的取り組みについて研究全体会で共有し改善に努めた。

「えななみ読みトレタイム」は毎週木曜日の朝の時間に全校で読みの力をのばすプリントに取り組んだ。取り組み方のルールを決め、同じ条件で同じ内容のプリントに取り組み、学期の最後に児童一人ひとりの成果と課題を全職員で共有した。「えななみ算数タイム」「えななみ読みトレタイム」の取り組みをファイリングし、取り組みの成果を児童がふりかえることができるようにした。



3、実践の成果

(1) 校内研究の組織・取り組み

2グループに分かれ、計画的に模擬授業、研究授業、研究協議会を進めることができた。全職員が公開授業に取り組むことで職員同士が学ぶ機会が増え、日々の授業改善につながった。特に模擬授業では、職員同士の活発な議論が行われ、授業者だけではなく、職員全員で授業作りに取り組むことができた。グループの代表授業では、指導案作成の段階から講師の方にご助言をいただき、よりよい授業づくりにつながった。

(2) 校内研究の具体的な取り組み

授業研究では「導入の工夫」をすることでどの授業も児童の学習意欲が高まった。

具体的な工夫としては、電子黒板やタブレットの活用、具体物の提示、既習事項の確認など、児童の実態に合わせた導入の工夫が見られた。また、「評価」については児童の実態に合わせた評価規準の設定や評価項目をしぼることの大切さを学んだ。

その他にも授業の流れの提示やふりかえりの活用、意図的なペア活動の在り方、電子黒板やタブレットの効果的な活用の仕方など多くの成果を得られた。

「えななみ算数タイム」「えななみ読みトレタイム」では、学期ごとに一人ひとりの成長を検証することで、担任が児童一人ひとりに対する学習支援を考え、取り組むことができた。また、ファイルに組みの成果を書き、学習の足跡を残すことで児童自身が目標を持ち意欲的に学習に取り組む姿が多く見られた。全校で同じ取り組みをして検証することで、児童の実態把握を全職員で行うことができた。

4、今後の展開

(1) 校内研究の組織・取り組み

本年度同様、2グループに分かれ、全職員が公開授業を行うことを継続する。研究授業を行うにあたり、模擬授業を行い授業力向上に努める。指導案作り、模擬授業、研究協議会を計画的に行い、研究推進委員を中心によりよい授業づくりに取り組んでいきたい。また、講師の方を招いての研修などを行い、より充実した校内研究にしていきたい。

(2) 本年度の課題と今後の研究の方向性

本年度の課題として国語や算数の用語を使い、自分の考えを説明することができる児童が少なかった。授業の中でもっと学習用語についてしっかりとおさえ、児童が用語を使って自分の考えを積極的に説明することができるようにしていきたい。また、タブレットを活用することで児童の学習に対する意欲を高めることができるが、使用する目的を明確にして授業の中に取り入れていく必要があることを学んだ。朝学習においては、継続した結果、子どもたちの基礎・基本の定着につながったが、もっと内容を各学年の児童の実態に合わせたものにしていく必要があると感じた。

来年度も基礎・基本の定着と日々の授業改善により意欲的に学習に取り組む子を育てることを目指し研究を進めていくが、朝学習を全校一斉の内容ではなく、各学年の児童の実態に合わせたものにして、より充実したものにしていきたい。また、自分の考えをうまく伝えることが苦手な児童も多いので、来年度は積極的に自分の考えを伝える力も育てていきたい。